

取扱いの趣旨

プロトンポンプ・インヒビター（P P I）注射薬の効能・効果に「経口投与不可能な出血を伴う胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性ストレス潰瘍及び急性胃粘膜病変」とあるため、逆流性食道炎等に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【注射】 《令和6年7月31日》

246 プロトンポンプ・インヒビター（P P I）【注射薬】の算定について

○ 取扱い

次の傷病名に対するプロトンポンプ・インヒビター（P P I）【注射薬】の算定は、原則として認められない。

- (1) 逆流性食道炎
- (2) 出血のない胃潰瘍
- (3) 胃癌

○ 取扱いを作成した根拠等

プロトンポンプ・インヒビター（P P I）【注射薬】の添付文書の主な効能・効果は、「経口投与不可能な出血を伴う胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性ストレス潰瘍及び急性胃粘膜病変」である。

また、その他の注意として、「本剤の投与が胃癌による症状を隠蔽することがあるので、悪性でないことを確認のうえ投与すること」と示されており、胃癌には適応もない。

以上のことから、経口摂取可能な逆流性食道炎、出血のない胃潰瘍、胃癌に対するプロトンポンプ・インヒビター（P P I）【注射薬】の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 72.23%
- 検証対象都道府県 42

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	山梨、新潟、宮城、香川、秋田、滋賀、京都、山形、鳥取、愛媛、和歌山、岩手、岐阜、宮崎、三重、埼玉	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	山梨、滋賀、新潟、沖縄、香川、栃木、広島、岩手、愛媛、京都、福岡、東京、宮城、長野、神奈川、大阪	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	山梨、滋賀、新潟、三重、京都、沖縄、香川、宮城、鳥取、和歌山、愛媛、山形、秋田、栃木、埼玉、広島	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

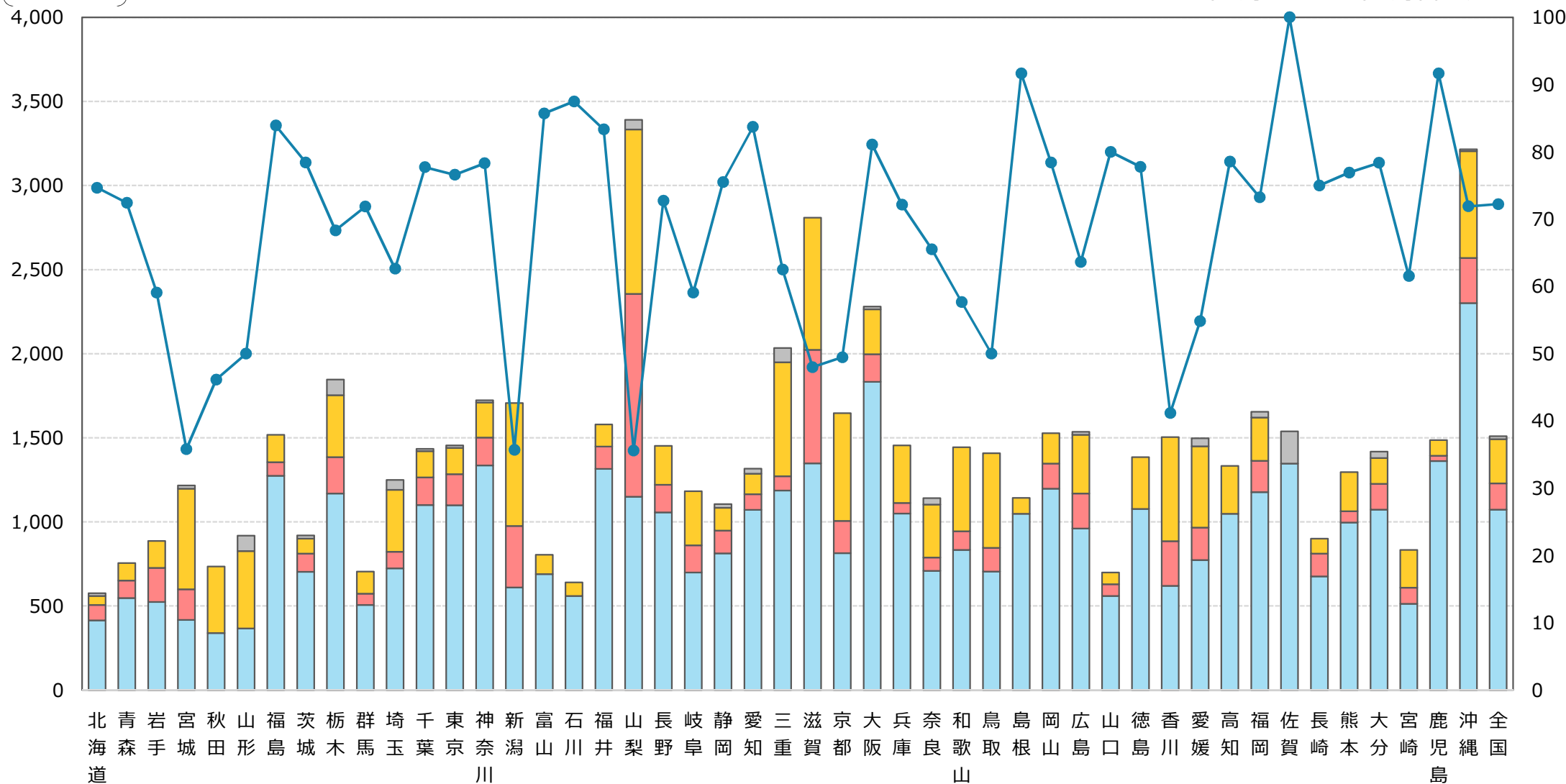
該当件数（全国）	【条件】	3,760件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,716件
検証を必要とする審査	請求どおり	1,044件

目視1万件当たり
該当件数

■ 査定 ■ 請求どおり・職員 ■ 請求どおり・審査委員 ■ 返戻 ● 査定・返戻割合（右軸）

2025年2月～2025年7月審査分

(%)



該当件数	75	29	22	67	13	10	56	51	60	32	190	202	577	272	28	7	8	12	59	44	22	49	86	24	50	95	555	140	29	26	10	12	51	88	10	18	17	31	14	142	8	20	39	37	26	48	299	3,760
請求どおり件数	19	8	9	43	7	5	9	11	19	9	71	45	135	59	18	1	1	2	38	12	9	12	14	9	26	48	105	39	10	11	5	1	11	32	2	4	10	14	3	38	0	5	9	8	10	4	84	1,044

【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数